

阿倍野区教育会議における意見等について

第 1 回教育会議

【外国につながる児童生徒の増加への学校支援】

昨年度も外国籍児童生徒の増加による学校現場の負担が議論になりました。小中学校への多言語翻訳機の配付に感謝しますが、外国籍児童生徒の増加が続く中で、その他の学校現場への支援策があれば可能な範囲で教えてほしい。

区役所の取組として、多言語翻訳機を令和 8 年度から令和 9 年度の 2 か年での配付を予定しており、令和 8 年度は 6 月下旬に 8 校に配付しています。

教育委員会の取組として、入学前に学校生活でのルールや授業で使う日本語を教える拠点等の支援体制整備、日本語指導が必要な児童生徒が多い学校への「日本語指導担当教員」の配置などを進めています。

令和 7 年 10 月以降の外国籍児童生徒の転入者の増加は少し落ち着いた様子が見えますが、引き続き、外国籍児童生徒の状況を注視し、教育会議や各学校からの様々なご意見をもとに、学校への支援策を講じていきます。

【児童虐待防止対策の促進について】

個別訪問などの対応をされているが、阿倍野区全体で児童虐待されているケースは具体的にどのような状況か教えてほしい

虐待には身体を叩かれるようなものだけではなく、食事を満足に与えてもらえない、衣服が汚れているといったネグレクトなど様々な種類があり、そういった行動に至る理由も様々ですが、日々のちょっとした気づきでその兆候をつかむことができることもあります。

阿倍野区では児童虐待防止相談支援事業での施設訪問の際に、関係機関の気づきを共有し、状況を把握しながら見守りを行っています。

保護者の了解があれば、家庭訪問を行い、養育環境の把握とともに保護者の困り感に応じた適切な支援につながるよう支援を行っています。

また、家庭訪問だけではなく、様々な機会をとらえて、関係機関や保護者の話を聞きかせていただき「虐待にならないようにする」支援から取り組んでいます。

第2回教育会議

【子どもの体力向上支援事業について】

子どもの運動時間を増やすうえで、体力向上支援事業は「競技力」ではなく「生涯の健康につながる基礎体力」を支える重要な施策であり、引き続き、安定した運営ができるよう取り組んでもらいたい。

子どもが運動は楽しいと思える施策が重要であると考えており、引き続き、事業を安定的に継続して実施できるよう取り組みます。

【がんばる先生について】

区広報企画「がんばる先生」について、企画自体は良い取組だと思うが、「がんばる」という単語が先生の忙しさと結びつき、見た人に重たく伝わる可能性があります。「先生の魅力発見」「先生のリアル」「先生たちのストーリー」など、より温かい印象の名称への変更を検討してはどうか。

ご指摘を踏まえ、名称が与える印象について再考し、事業継続をしていくうえで、改めてふさわしい名称を検討します。

【学校園の負担軽減について】

学校園の電話対応について、自動音声等は一般企業では既に普及しているため、「今頃ようやく導入なのか」というのが率直な印象です。学校園の負担軽減について、現状の取組等をより詳しく教えてください。

区役所の取組として、教員を支援するために区予算によるスクールカウンセラーの追加配置、学校園等支援ボランティア募集、教員サポート講習会等の取組を進めています。

教育委員会の取組として、時間外在校時間の縮減、精神疾患による休職者の割合の高止まり、退職者数の増加、教員採用試験の受験者数の減少といった課題認識のもと、スクールサポートスタッフの拡充、欠席連絡アプリ等のICT活用、成績処理等のシステムによる業務効率化、部活動指導員の拡充等を進めているところです。

区役所として、引き続き、関係局と連携して教員や学校の支援に取り組んでいきます。